

三遠南信エクスカーション「現代によみがえる交流の道」

エクスカーションは、地域の歴史遺産や社会資本施設、自然、地域の姿に触れながら、ガイドの説明を聞きながら学習を深めていく、地域体験型学習の一環として行っているものです。

今回は、浜松市の北にある秋葉街道の宿場町と三遠南信自動車道の工事現場を訪ねる体験学習会を実施しました。

今から150年くらい前、静岡県西部から愛知県鳳来町までの間には、一日数千の人が通ったと言われる秋葉街道がありました。当時の姿を現す歌には「川宇蓮 片町 なぜ日が照らぬ 秋葉道者の 笠の陰」と読まれています。今はその面影は全くなくて、ひっそりとした山間の集落の姿となっています。

この地域に、静岡県から愛知県を經由して長野県に繋がる三遠南信自動車道の工事が行われており、山腹を貫くトンネル工事が目をひきます。

今回のエクスカーションでは、かつて栄えた街道を尋ね、工事が真っ盛りの三遠南信自動車道の工事現場を見学し、未来へと続く交流の道を体験していただきました。

にちじ	平成20年11月31日(日)
参加者	25名 (浜松市内の小学生と父兄)

行程

中部建設協会浜松支所(集合) → 浜松駅 → 渋川(からくり人形見学) → 秋葉街道 川宇蓮(かおれ)・大平の集落 → てんてんぐ-渋川で“まぼろしの今坂まんじゅう”作り → 蛇紋岩探し → 巨大断層・中央構造線 → 三遠南信自動車道トンネル工事現場 → 浜松駅 → 浜松支所(解散)



川宇蓮集落(地元ガイドの説明)



名号トンネル(見学記念写真)